経営と情報の考察

海老澤　信一

企業情報システムの発展

　「経営情報論」は、企業と情報の関係を論ずる研究領域である。コンピュータ(computer)は、文字通り膨大なデータを処理する計算機として誕生した。その後、企業とコンピュータメーカーは、「コンピュータは企業活動で発生する大量データを効率良く処理して、企業活動に役立つ画期的な道具になる」ことに気付いた。その後インターネットの誕生と発達に伴って、コンピュータと企業情報システムは経営の根幹を左右するまでに進化した。これを語る時には、情報システム化の流れと意味を理解する必要がある。

企業情報システムと業務

　システムとは日常的に多用される言葉である。システムとは、ある共通の目的を持って働く個々の要素が、有機的に体系的に組み合わされ、あるまとまりをもつ全体である。企業の共通の目的の一つは利益の追求である。そして、システムはどのようなものでも、「同じレベルでの要素の組み合わせ」と、「異なるレベルの要素の積み重ね」と「それらが総体として実現している機能」という特徴を持っている。表１のように企業システムを購買、製造、物流などの各部門の要素（サブシステム）の集合体と捉えると理解が深まる。

|  |  |
| --- | --- |
| 購買管理システム | 購買の見積・発注、商品の入荷・請求書照合等の情報管理 |
| 製造管理システム | 製品の生産計画、資材の所要量等の情報管理 |
| 物流管理システム | 材料の入庫、製品の在庫・保管・出庫等の情報管理 |
| 販売管理（営業）システム | 商品の引合・見積・受注・出荷等の情報管理 |
| 顧客管理（営業）システム | 顧客（販売先）、請求書等の情報管理 |
| 人事管理システム | 社員の昇進・賞罰・給与、人材の採用・配置転換等の情報管理 |

企業情報システムの構造

　次に、企業情報システムの体系を提示する。企業情報システムは、企業の管理レベルに合わせて開発され体系化された歴史を持つ。それは、現場が扱うシステムである「業務情報システム」及び経営層を対象にした「経営情報システム」である。業務情報システムは、顧客に一番近い現場を支えるシステムであり、企業における日常的な業務処理とその管理を行うという定型的な定常的な業務である。

一方、経営情報システムは、総体的に言えば、戦略計画に添った施策を下部組織である業務情報システムに伝え、企業全体が有機的に稼働しているかを管理する役目を持つ。それぞれのシステムを、身近な例を挙げるなどして分かり易く提示する必要がある。